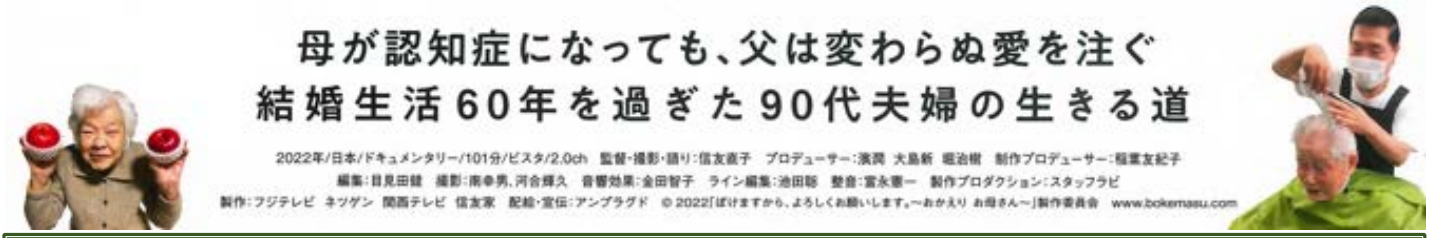
監督・撮影・語り
&ひとり娘
信友直子

ぼけますから、よろしくお願いします。
～おかえりお母さん～

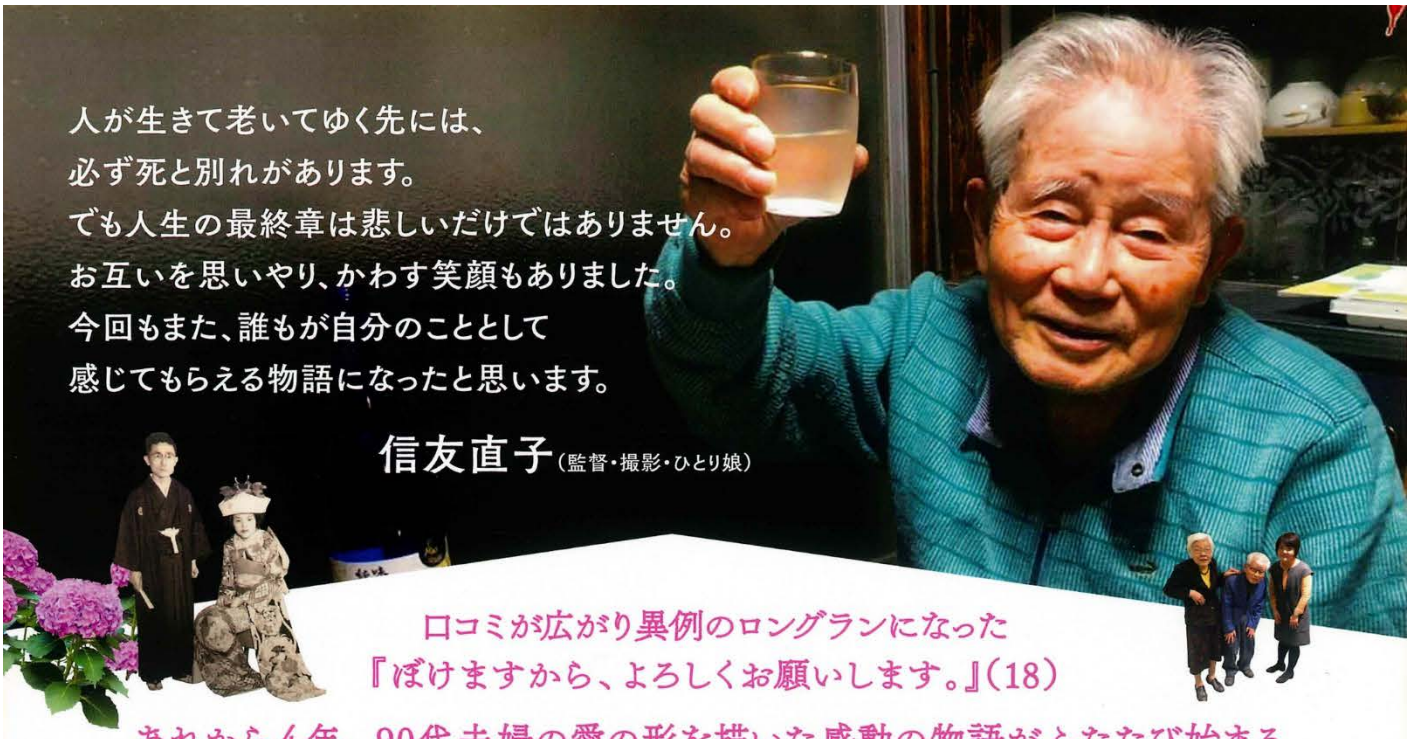




日時：　11 月 11 日(土)　12:30 開場　13:00 開演
会場：　小美玉市四季文化館(みの～れ)
企画　いばらきみまもりあいプロジェクト「つどい」

13:00　開催あいさつ
13:05　いばらきみまもりあいプロジェクト活動紹介
13:20　高齢化社会　新しい暮らしを創る講演　　長谷川幸介 氏
　　(茨城県生涯学習・社会教育研究会会長(元茨城大学教授)
14:00　休憩　(15 分)
14:15　「ぼけますから、よろしくお願いします ～おかえりお母さん～」上映
15:56　閉会あいさつ
16:00　終了

主催　いばらきみまもりあいプロジェクト　(事務局　茨城県生活協同組合連合会)
後援　茨城県・小美玉市・小美玉市社会福祉協議会
協力　いばらきみまもりあい推進ネットワーク参加団体
茨城県社会福祉協議会・JA 茨城県中央会・JA 茨城県厚生連・共栄火災海上保険水戸支社・こくみん共済 coop 茨城推進本部・NPO 法人ともに歩む認知症の会 茨城・いばらきコープ・パルシステム茨城 栃木・生活クラブ生協・茨城保健生協・医療福祉生協いばらき



人が生きて老いてゆく先には、
必ず死と別れがあります。
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。
今回もまた、誰もが自分のこととして
感じてもらえる物語になったと思います。

信友直子（監督・撮影・ひとり娘）

口コミが広がり異例のロングランになった『ぼけますから、よろしくお願いします。』（18）

あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願いします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦労に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。



東京で働くひとり娘の「私」（監督・信友直子）は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた――

―2018年。―

父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるときのためにと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナが猛威をふるい面会すらままならなくなる。





















ぼけますから、
よろしくお願いします。
～おかえりお母さん～

■申込方法　①専用のWEB申込フォームからお申込みください。

URL　https://ws.formzu.net/fgen/S896090370/　QR

②または、電話　029-226-8487　でお申し込みください。

※受付は月～金（祝祭日除く）　10:30～15:00　（12:00～13:00除く）

■申込人数　上限500名まで

■申込締め切り　500名となった時点で受付は終了いたしますのでご了承ください。

■入場　①WEB申込の方　受付でスマートフォンのWEB申込画面を提示してください。

②電話申込みの方　受付にある申込リストで確認をして入場ください。